

# 例会報告



- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 遠藤 隆浩
- 幹事 垣内 秀文
- 会報委員長 長瀬 達三

第2598例会 令和元年10月27日  
濃飛グループインターシティ・ミーティング

10月27日(日)10:00より高山中央RCホストによる濃飛グループIMがひだホテルプラザにて開催されました。

〈第2598回例会〉

## 濃飛グループインターシティ・ミーティング

司会 高山中央RC 幹事 堀口 浩之

- 9:30 登録受付
- 10:00 開会の挨拶 IM実行委員長 山本 辰男  
点 鐘 ガバナー補佐 清水 幸平  
国歌独唱 高山中央RC 益田 大輔  
ロータリーソング斉唱 ソングリーダー 二木光太郎
- 歓迎の言葉 高山中央RC会長 坂之上健一  
ガバナー補佐挨拶 ガバナー補佐 清水 幸平  
特別参加者・参加クラブ紹介 ガバナー補佐 清水 幸平  
ガバナー挨拶 ガバナー 辻 正敏
- 10:30 講師紹介 司 会 堀口 浩之  
講演「ロータリーと私」
- 第2800地区パストガバナー(寒河江RC) 鈴木 一作
- 12:00 次期ホストクラブ発表 ガバナー補佐 清水 幸平  
次期ホストクラブ代表挨拶 下呂RC会長 桂川 廣明  
所感 直前ガバナー 木村 静之  
閉会の言葉 IM副実行委員長 中田専太郎
- 12:15 点鐘 ガバナー補佐 清水 幸平
- 【第2部】 司会 高山中央RC 副幹事 岡崎 壮男
- 12:30 開会の言葉 高山中央RC 副会長 大原 誠  
乾杯 パストガバナー 桑月 心  
祝い唄 ガバナーエレクト 剣田 広喜  
アトラクション
- 14:30 お礼の挨拶 高山中央RC会長エレクト 村瀬 裕台  
ロータリーソング「手に手つないで」  
ソングリーダー 二木光太郎
- 15:00 閉会の言葉 高山中央RC直前会長 高原 清人

### 開会の挨拶

#### IM実行委員長 山本 辰男

皆様おはようございます。本日はIMにたくさんご参加いただきまして本当にありがとうございます。今年度は大変災害の多い年でございまして、びっくりするような雨風に心配されている事と聞いています。無事に皇位が継承されてたいへんこの頃めでたい行事が次々と行われております。陛下のお言葉に、「世界の平和と国民の幸せ」という言葉がございましたが、我々ロータリーも同じ意図で行動しています。願うだけでなく行動する事が、ロータリーの大事な所だと考えています。今日はそのようなロータリアンの方々がたくさんお集まりいただいて、このIMを開催できる事を喜んでおります。それでは濃飛グループのIMを開催させていただきます。よろしく願いいたします。



### 歓迎の言葉

#### 高山中央RC会長 坂之上 健一

皆様おはようございます。今回ホストを務めさせていただきます、高山中央ロータリークラブ会長の坂之上です。本日は濃飛グループの皆様へ多数このインターシティミーティング(IM)にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、辻ガバナーをはじめ地区役員の皆様そして委員の皆様お忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。



このインターシティミーティングとは、グループ毎にガバナー補佐が主催する会合です。内容としては、ロータリーの事や、今社会で検討しなくてはならない事について知り、勉強する場です。そして講演を通して見識を広げる、そして同じ位に皆さんの親睦に力を注いでいます。本日、このインターシティミーティングには講師に寒河江ロータリークラブのパストガバナーの鈴木一作様にお越しいただいております。内容は「ロータリーと私」という事でどのようなお話をしていただけるのか凄く楽しみにしております。鈴木様後程よろしくお願いたします。第1部が終了しますと第2部では懇親会が行われます。懇親会では自分達のクラブのメンバーだけと話すのではなく、折角グループのメンバーがこうして集まって来ておりますのでなるべく他のクラブの人達と話をし親睦を深めていただきたいと思います。

本日のインターシティミーティングに向けて、清水AGそして山本実行委員長と私達会員一同一生懸命設営をして参りました。しかし、皆様に満足はいただけない不行き届きな点があるかと思いますがお許しをいただきまして、本日一日皆さんで有意義な一日にいただければ幸いです。最後に本日の会議が皆様にとって実り多い会議となることを祈念いたしまして私の歓迎の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### ガバナー補佐挨拶

#### ガバナー補佐 清水 幸平

皆様おはようございます。この度国際ロータリー第2630地区、濃飛グループのインターシティミーティングの開催するにあたりまして、辻正敏ガバナーをはじめ地区内のパストガバナーの皆さん、並びにガバナー補佐および地区役員の皆様方にはご臨席を賜り本当にありがとうございます。そして濃飛グループの6クラブの会員の皆様にも沢山お集まりをいただきまして誠にありがとうございました。更に本日は講師といたしまして山形県の寒河江ロータリークラブから鈴木一作様をお迎えいたしました。鈴木様には大変遠い高山までおいでいただき誠にありがとうございました。さて先ほどIMの目的は私共の会長がお話させていただいたように近隣クラブ同士の親睦でございます。私達の濃飛グループは縦に長く美濃、下呂、高山とそれぞれ離れております。普段はグループ内の交流に限られているように



## 例会報告

思います。そこで本日のIMは先ほどのお話のように第1部においてロータリーに関する講演をいただき、そして2部においてはグループ内の会員相互の深い親睦の場としたいと思っております。

マーク・ダニエル・マローニーRI会長は、「家庭で、事業で、地域での活動とロータリー活動が補完関係である文化を育てましょう。」とされています。鈴木先生はロータリーについて大変造詣が深く、そしてロータリーで学ばれている事を日々の生活で実践されている真のロータリアンであると思います。本日のご講演が会員それぞれにロータリアンとしての自覚の機会となればたいへん幸いです。本年度辻ガバナーは、テーマを「総天然色」としてあります。とても素晴らしいテーマでございます。そこで本日のIMはその「総天然色」の数ある色の中から特に青色だけを選び出して進めていきたいと思っております。ロータリーの色「ロイヤルブルー」この一色で今日はIMを進めていきたいと思っております。どうか皆さんこのロータリーの色に染まった一日にしていだければありがたいと思っております。最後になりましたが本日のIMの実行にあたり準備運営に協力いただきました高山中央RCの皆様へ心から感謝をし私の挨拶とさせていただきます。

### ガバナー挨拶 辻 正敏

皆さんおはようございます。今日が最後のIMとなります。国際会議観光都市というこの高山の町から3つのクラブ、それから天下の名泉といわれる下呂のクラブ、それから長良川鉄道で非常に豊かな風景をお持ちの美濃加茂RC、最後になりましたが来年いよいよ大河ドラマがやってきます、明智光秀の舞台の可見の皆さん、この6クラブの皆さんおはようございます。



高山中央の方にお聞きしたいのですが、先ほど国家君が代を独唱された益田さんのご職業は何ですか？ドクターですか。声楽をやってみえるのかと思いましたが。今日は第2800地区からパストガバナーの鈴木一作様にお越しいただいてこのIMが開催されるという事はたいへん嬉しい事です。鈴木一作様と一緒に勉強できる事を幸せに思っています。9月13日には美濃加茂RC、可見RCへ訪問させていただきました。9月30日には下呂RCに公式訪問してお邪魔をさせていただきました。そして10月7日にこの高山へ高山RC、高山西RC、高山中央RC、3クラブの公式訪問として訪問させていただきました。おかげさまで行く先々でお世話になり、無事に72クラブの公式訪問を終えられました。ありがとうございます。

色々な事が起こっておりますけれども、先ほど災害の話がありましたが、良いお話もありました。ポリオです。ナイジェリアで3年間、ポリオの自然株の発症が無かったという事はもうお話をしましたが、3日前の10月24日世界ポリオデー、この日に同時に発表されたのがポリオウイルスのⅢ型がこの地球上から根絶されたという事です。ポリオのウイルスにはⅠ型、Ⅱ型、Ⅲ型と3つのタイプがあります。ほとんどよく似ていて症状もほとんど一緒です。Ⅱ型の方は早くに根絶されました。Ⅲ型とⅠ型が残っていましたがそのⅢ型が24日に根絶宣言を出され、後はⅠ型だけです。これは大きなポリオ根絶に向けての進展かなと思っています。

今日は鈴木一作様のパストガバナーのお話「ロータリーと私」を聞きながら、一つ私も一緒になって勉強させていただき、自分が今までやってきたロータリーというものを振り返って行きたいなと思っております。是非、先ほどご紹介した6クラブの皆様がそれぞれに、はつらつと楽しんで活動をされて濃飛に「総天然色」の花を咲かすようにしたいな、して欲しいなと思っております。最後に

なりますが今回のこの企画を頂くにつきましては高山中央RCのガバナー補佐をお願いしております清水幸平様、そして坂之上会長率いる高山中央RCの皆様へたいへんご尽力を賜りました。おかげで今日の日を迎える事ができました。そしてここにお集まりいただきました皆さん共々、これからのロータリー、これからの我々の家庭、仕事、そしてロータリーの活動が益々充実したものになります事を祈念しますと共に皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。冒頭のガバナーとしてのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

### 講演「ロータリーと私」 国際ロータリー第2800地区 パストガバナー

鈴木 一作 様

皆さんおはようございます。伝統ある2630地区そして濃飛グループの皆さんこのような席で話をさせていただきます。事をたいへ



ん光栄に思っております。実行委員長そしてガバナー補佐の皆様本当にご苦労様でございます。高山中央RCの皆様本当にありがとうございます。今日私に課されたテーマは「ロータリーと私」。要するに好きな事をしゃべっていいよというテーマです。はじめにロータリーの事について再整理という事でロータリーとはこんなものだという所からお話をさせていただきたいと思っております。

ロータリーの起源は、ご存知のように1905年、アメリカンシゴの弁護士である、ポール・ハリスとその友人3名が、一業種一人からなる職業人の集まりとして親睦と相互扶助を目指すクラブ、要するに「お互い楽しもうよ、お互い仕事上のことを助けあおうよ」という事を目指したクラブとして創立されました。当初は、例会場を輪番、即ちローテーションで提供しあった事から、ロータリーと名が付いたというふうになっています。その後、アメリカ各地に同様なクラブができて、それらが集まって1910年に全米ロータリークラブが結成されました。更にカナダ、イギリスが加わり、1912年ロータリークラブ国際連合と名前が改められ、そして1922年国際ロータリー、RI (Rotary International) と改称されました。1922年ですから後数年するとRI 100周年というのがあります。さてそのRIですがRIの定義が今年から少し変わりました。RIは『全世界のロータリークラブの連合体』から、『ロータリークラブ及び、ローターアクトクラブの連合体』に変わりました。そのRI、国際ロータリーの目的ですが、「ロータリーの目的を推進するクラブ、ローターアクトクラブ、RI地区を支援する」という事を第一としています。

またRI理事会は、RI会長、会長エレクト、全世界34のゾーンから17名の理事が出てきます。任期は2年です。その決議機関として17名+会長+会長エレクトの19名から成っています。それに事務総長が加わります。事務総長は、理事会の幹事を務める人で、議事の投票権を持ちません。今年の規定審議会でこれまでの最高執行責任者(COO)であった事務総長が最高経営責任者(CEO)に変わりました。事務総長の役割が変わったかという名称だけ変わっただけで、事務総長の任務は変わりません。どのような事かという国際連合や世界的な会合に出た時にCOOではなくて、CEOで出ていかないと、発言権や席が違う、そういった事でCEOという事にしましょうというのが一つの名目であると聞いています。そのRI理事会の任務ですが、主たるものは先ほど述べたRIの目的を推進する事、そしてロータリーの目的を達成する事、それが主たる任務です。ガバナーは、その地区においてRI理事会の一般的な指揮監督の下に職務を行うRIの役員で、一般的には地区にはたった一人ガ



## 例会報告

バナーというR Iの役員がいるという事になります。例えばR I理事がそこから出れば2人いるという事になります。ガバナーの任務は地区内のクラブに対する指導及び支援を通じてロータリーの目的を推進するというのが主たる任務になります。ロータリークラブの目的は標準ロータリークラブ定款第32に記されていて、主たるはロータリーの目的を達成するという事。そして奉仕プロジェクトを実施する会員増強、ロータリー発展に寄与、そしてロータリー財団を支援する事と決められています。ここでお分りの通りR I理事会にしてもガバナーにしてもロータリークラブにしても共通した目的、それはロータリーの目的であるという事です。そしてそれは我々ロータリアンにとっても同じです。全部共通した目的の下に私達は活動しているという事になります。

そのR Iが何を狙っているのかという事についてお話をさせていただきます。国際ロータリーは現在ゾーンの数としては34に分かれていて、クラブ数は35,000ほど、全会員約11,000,000人、女性が23%です。日本は2.5ゾーンです、クラブの数は2,261全会員数が87,000、女性が7%。日本は過去20年で会員数が減少してきましたが、かつては120,000人いました。ここ数年は下げ止まりだと言われ87,000前後を維持しています。世界では20年、その会員数は増加中でしたがここ4、5年で減少しています。R Iはこれを懸念しています。会員の減少がR Iにとっての大きな課題だと認識しています。

今年のR I会長マーク・ダニエル・マローニーはR Iテーマとして「ロータリーは世界を繋ぐ」を提唱されています。そのメッセージとしてはロータリーの奉仕を通じて人々が手を取り合い行動を起こすためのつながりを築くという意味です。このテーマはバリーラン前会長の「インスピレーションになろう」があり、イアン前々会長の「ロータリーに変化をもたらす」というのを一連と考えるのが妥当かなと考えています。言葉を一言につなげていけば「変化」そして「感化」そして「つながり」と、この3つの言葉の流れ、方向性がR Iの戦略計画ということだと思います。R I戦略計画は5つあります。中核的価値観、ミッションステートメント、ビジョン声明、戦略的優先項目、そして行動計画です。

中核的価値観について少し説明させていただきます。R I理事会はR Iの戦略計画の一環として中核的価値観、即ち奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップを採択しています。私がガバナーになる時に、GETSにおいてこの中核的価値観についての説明を受けました。私はその時、素朴な疑問を感じました。ライオンズクラブとどう違うのか、ライオンズクラブも奉仕を大事にしているし、親睦も大事にしている、多様性も当然世界的なクラブなのであるし、高潔性、リーダーシップもあるはずである。ライオンズクラブの中核的価値観とロータリークラブの中核的価値観のどこに大きな違いがあるのかと問いましたが、するとI serveとかWe serveとか色々説明をしてくれましたがI serveとかWe serveとかはどこにも書いていないので腑に落ちないでいました。ガバナーをするにあたり自分なりに勉強をしなくてはならない、色々勉強している内に2012年の1月のR I理事会決定158号に出会いました。なるほどな、と理解しました。どういう事かというロータリーは創設当初より事業と専門職における高潔性を土台とする倫理を築いてきました。ロータリークラブおよび個々のロータリアンは職業奉仕に献身し全ての取引において、高い倫理基準を守るように尽力する。これらはロータリーの目的と中核的価値観と4つテストとロータリアンの行動規範の4つに要約されるものであり、世界各地で活動するロータリークラブ及びロータリアンによって実行される。これが全文です。これだったら要するにロータリー創立以来の歴史と活動はロータリーの目的、中核的価値観、4つのテスト、ロータリアンの行動規範、この4つに要約されると言うのであれば、少し分かった気がしました。ライオンズクラブや世界的なグループ、団体とは少し違うと、私はこの決定158号で納得しました。

さてミッションステートメントとはどういうものかという、国際ロータリーは他者に奉仕し高潔さを促進し事業と専門職及び地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進する。簡単に言うと「奉仕」、「高潔性」、「リーダーシップ」、「親睦」、そして「世界平和」。「世界平和」というのは多様性を尊重するという事に尽きますから、要するに中核的価値観を文章化したものであります。それから「ミッション」、ミッションというのは「使命」、命の使い方と言われる物ですが、R Iのミッションというのは中核的価値観だと理解することで分かります。ミッションステートメントというのは中核的価値観。

ではビジョン声明とは何か。ビジョン声明は私達が世界で、地域社会でそして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。ビジョンというのは夢とか構想とか目指すものという意味合いです。最近の色々な文章に出てくる「持続可能」という言葉、日本人にとっては分かったようなよく分からないような言葉ですが分かり易く言い換えると、私達は世界が地域社会の、そして自分自身が成長、発展し続けるように力を尽くします、とすると日本人にとっては分かり易くなります。後半は、誰もが仲良く協力し合える平和な世界を目指しています。こうすると日本人にとっては分かり易くなります。もう一つ社会の発展を目指しましょう、そして自分自身の力、ロータリアンの成長を目指しましょう。そして世界平和を目指しましょう。R Iの考え方は社会がよくなってロータリアンも成長して、そして世界が平和になりますようにと言っております。私も大賛成です。こういったビジョンを出してきております。

戦略的優先項目、こうした「中核的価値観」、「ミッションステートメント」、「ビジョン声明」に入ってくる戦略の中でR Iは何を優先的に考えているかという事です。これは具体的にはクラブのサポートと強化をしようという事です。簡単に言うと会員増強とリーダー育成です。そして人道的奉仕の重点化と増加、重点化を簡単に言うとロータリー財団プロジェクトを活用しようという事です。ポリオを一生懸命頑張ってください。6つの分野、財団が出している分野に大いに協力してください。という事です。そういった事を重点化してむしろそれが増えていきますようにという事です。そうした事を通じて公共イメージ、認知度を向上させましょう、積極的に広報してロータリーのブランド力を向上させる。実は理事会決定157号にあります。財政的安定性及び管理運営に関する効果の改善というのがあります。どういう事かという、R I及びロータリー財団の財政確保ですが、最初の3つを大いにやる事によって、会員の増強を目指してR I、ロータリー財団が益々発展していくように少なくとも縮小していかないようにしていかなければいけません。

最後の行動計画、これは今年出されてきたもので行動計画が4つ、「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかわりを促す」、「適用力を高める」どういう事か分かりますか？説明させていただきます。「より大きなインパクトをもたらす」というのは効果的で効率的な印象的な奉仕プロジェクトを頑張りましょうという事です。奉仕プロジェクトの対象を焦点を絞って集中的にやっていきましょうという事で、それに各自のスキルを活用しましょう。そして世界的なネットワークを大いにつなげて活用しましょう。要するにポリオをはじめとした6つの分野についてロータリー財団のプロジェクトを大いに活用して、それこそ効果的だろう効率的だろう印象的だろうとそしてそういった成果を効果的に広報して行こうという事です。要するにより大きなインパクトをもたらすには効果的で効率的で印象的な活動をしなさいという事です。「参加者の積極的なかわりを促す」とは何かという、参加者のニーズ、期待、成長をクラブ活動の中心に据えましょうという事です。要するに会員のニーズは何か、「ロータリーで交流したい」、「学びたい」、「体験したい」、「達成感を得たい」そういったものをしっかりクラブのリーダーは見極めてそれを集

## 例会報告

中的にやっていく、それがロータリーのリーダー育成だと思えます。また地域社会に対しては地域活動にロータリアンも大いにまたロータリークラブとしても大いに参加して、交流して地域から喜ばれる奉仕プロジェクトやっつけよう。要するにニーズに応え絆を強めましょうという事です。「適用力を高める」は中々難しい内容です。世界は変化している、迅速に我々も適用していかなくてはならないというような事で、斬新なアイデアを大いに推奨するという事です。そしてロータリーを強化していきたい、具体的には多様で柔軟、持続可能なクラブ運営を目指しましょうという事です。例会の回数、時間帯、場所、内容は各クラブで決めていいですよ、会員の種類、会費、委員会の構成についても基本は出していますがそれ以外のもは各クラブでお考え下さいという事です。これは日本人にとって非常に難しい事です。例会の回数にしても少なくとも2回となっていますが、毎週と決めてくれと。皆一律で決めてくれた方がありがたい、しかし少なくとも2回という事です。勝手に自分達でうちは4回と決めればいい、メイクアップもそうです。今年からメイクアップは前後2週間から1年間になりました。1年間の中でメイクアップすれば良いとなりましたが、それも各クラブで今まで通り前後2週間と決めれば良いし、場合によってはもっと厳しくメイクアップは前後1週間と決めれば良い、要するに好きに好きな、自分達が良いと思ふことをどんどんやりなさいという事です。そうやって適用力を高めましょうという事です。最後の「参加者の基盤を広げる」というのは、ロータリーの価値や実績をもっと広報してください、そして例会や奉仕プロジェクトに地域の人達を招いて、体験してもらって感動へ導いてください。ローターアクトにも働きかけてもっと地域の中で我々の仲間を増やしていく、勿論他組織や団体とのパートナーシップも構築していこう、ライオンズクラブとも仲良くしていこうという事です。そして参加者の基盤を広げるという事です。簡単に言うより多様な会員を勧誘しましょうという事です。即ちRIの4つの行動計画は効果的、効率的、印象的な活動、ニーズに応え絆を強めるという事です。

「変化」、「感化」、「つながり」それはロータリーのブランド力を高めましょうという事です。ロータリーのブランド力を高めることによって会員の増加をもたらしましょう、というふうに理解すればRIの戦略計画は概ね分かった事になると思います。

最近、よく引用される Paul Percy Harris の言葉ですが、GETSとかGMISとか全国レベルの会合ではよく出てきます。「ロータリーは、その適切な使命を実現するために、常に進化していかなければならない。時には、革命すら必要である。要するに『ロータリー：変化をもたらす』。21世紀の不易流行の流行部分が、RIの戦略計画であるといえるのではないかと思います。では不易の部分は何か、それはGuy Gundakerのロータリー観だと私は考えています。

Guy Gundakerは1923-24年度のRI会長です。つまり、日本人が重要視している「決議 23-34」の採択時である1923年6月はRI会長エレクトでしたが、その決議文には「A Talking Knowledge of Rotary」の内容が色濃く反映されています。

「A Talking Knowledge of Rotary」は、Guy Gundakerの原著に基づき編集された、当時のロータリーの一般奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化した4冊のパンフレットから成る小冊子です。史上初めてのロータリーの教科書・解説書と言っても良いものであり、1916年7月に開催されたシンシナチ大会で、「ロータリーのクラブ管理運営のテキスト」として採択、認証されています。また、その前年のサンフランシスコ大会で採択された「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓(道徳律)」の全文も掲載されていますが、この「道徳律」は日本でも福島喜三次、米山梅吉、小堀憲助、深川純一、田中毅といった5人のロータリアンの貢献により普及しました。またGuy Gundakerは、1923年(大正12年)の日本の関東大震災に際し、RIその他から東京RCへ総額89,000ドル(42,000ドルなど、諸説あり)の義援金を贈ってくれ

た、日本にとってはとても縁の深い人物なのです。

さて最近、「ロータリーは世界的な奉仕団体である」という言葉をよく耳にします。確かに間違っていない。しかし、ロータリー全体を正しく語った表現とは言えません。なぜなら、ロータリーの三要素である①親睦、②学び、③奉仕がそろっていないからです。

Guy Gundakerは、「ロータリーの親睦とは、ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与える土壤である」と述べています。ここで留意して欲しいのはfellowshipは「志が同じ者同士の連帯意識」という意味だということです。それに対して、friendshipは「親しい者同士の友情」という意味です。Guy Gundakerは、「ロータリーの志を共にする連帯意識を強め高め合う親睦こそが、ロータリーの基盤である」と述べているのです。

また、Guy Gundakerは、ロータリーの例会を「学びの場」と捉え、「①会員の事業、生活、生き方に有益な情報を提供する場。②会員同士が知識や意見を交換し、経験を語り合い、誠実な人柄に触れ、敬愛の念を深めていく場。③奉仕の心を学び、理解し、実践の意欲が湧き上がる場」が例会であると説明しています。また、ロータリーの他クラブにない特徴は「教育的性格である」とも書いています。ただしロータリーの「学びの場」は例会だけではなく、地区セミナー、PETS、地区研修・協議会など、志を共にするロータリアンが出会い集いて連帯を深める場、すなわち「親睦を育む場」の全てが「学びの場」でもあるのです。

さて、ロータリーの価値ある奉仕の中で、最も重要な奉仕は何でしょう。もちろん、それは職業奉仕です。理由は、ロータリアンの生活の大部分は、職業を通じて社会に奉仕している時間だからです。しかも、そのおかげで本人、家族、職員、さらに関連業者も含めて生活の糧を得ています。言うまでもなく、職業奉仕が疎かなようでは、社会奉仕や国際奉仕どころではありません。日本のロータリアンは、職業奉仕に対して強い思い入れを持っています。それは、職業倫理訓をはじめ、Art Hurf Sheldonの奉仕理念、四つのテストなどに対する強い共感意識です。共感する理由は、それらの内容が、二宮尊徳の報徳思想、近江商人の三方よし、渋沢栄一の経済道徳合一論など、日本特有の商売道徳思想に合致していたからでしょう。

その一方、「職業奉仕は難しい」という言葉もよく耳にします。理由は幾つかありますが、最大の理由は、職業奉仕を解説する人によって話す内容が違うからではないでしょうか。例えば、ある人は「職業倫理」を説き、ある人は「Sheldonの考え方こそが職業奉仕だ」と説くからです。それだけに私は、職業奉仕を「1本の太木」ではなく、「1つの大きな森」として考えるべきだと思っています。なぜなら、職業奉仕に対する考え方は、歴史上、間違いなく幾つもあるからです。言い換えれば、職業奉仕という森には、異なる木々群が互いに影響し合いながら生い茂っているということです。したがって、職業奉仕を理解するには、それらの木々全て、すなわち森全体を対象にしなくてはなりません。

例えば、四つのテストの「真実かどうか」と「みんなに公平か」は「職業倫理」に、「好意と友情を深めるか」は「奉仕の理想」と「顧客獲得の経営」に、そして「みんなのためになるかどうか」は「職業=社会への奉仕」に相当します。また、「職業=天職」という考え方は、職業奉仕の原語 vocational service の尊重すべき崇高な職業 vocational に込められています。一方、自己の職業上の知識や手腕を活かして社会奉仕をする「職業人の社会奉仕」



## 例会報告

は1987年の「職業奉仕に関する声明」で初めて謳われたもので、比較的新しい考え方です。その後も、「ロータリアンの職業宣言(1989年)」、「ロータリーの行動規範(2011年)」、「ロータリアンの行動規範(2014年)」でも謳われ、2016年からは、標準ロータリークラブ定款・第6条の2「職業奉仕の定義」でも謳われているのです。

この「職業人の社会奉仕」は、日本の商売道徳思想にはなかった考え方で、今でも「こんなものは、職業奉仕ではない」と主張する方が少なからずいらっしゃいます。しかし、標準ロータリークラブ定款に記された内容は、ロータリアンである以上、受け入れなくてはなりません。

実は、私は「奉仕」を色分けする必要はないと思っています。例えば、眼科医の私が発展途上国へ行き、先天白内障手術を恵まれない子供たちに無償で実施した場合、これは国際奉仕、職業奉仕、それとも青少年奉仕なのでしょう。ロータリーの目的の第3を思い出してください。そこには、「個人生活、事業生活、社会生活に、奉仕の理念を適用する」とあります。すなわち、ロータリアンは生活のあらゆる場面で奉仕の理念を貫けばよいのであって、「奉仕」を色分けする必要はないのです。

ところで、「ロータリーの友」2017年1月号に『職業奉仕はロータリーの根幹か?』という文章が掲載されました。日本のロータリーにおける「職業奉仕」論がガラパゴス化の一因だ、という内容でしたが、R Iの戦略計画を念頭に置いた、不易流行で言う所の流行を重視したものではないかと思いました。

Guy Gundaker は、ロータリーとは、ロータリークラブにおいては「親睦と学びの場」であり、ロータリアンにおいては「人間性の向上」をもたらすものであり、仕事においては「事業の発展向上」に繋がるものであり、世間においては「世の中を良くしていく向上運動」であり、究極の目的は「素晴らしい真のロータリアン」を育てること、と明記しています。すなわち、我々がよく耳にする「入りて学び、出でて奉仕」や「自己研鑽の奉仕」の原型が、既に記されているのです。

私は、「ロータリーは、時代の変遷によって変わらなくてはならない」という考えに異論はありません。しかし、変えてはいけないものの多くが、Guy Gundaker のロータリー観にあると思っています。

ご清聴ありがとうございました。

### 次期ホストクラブ代表挨拶

#### 下呂RC会長 桂川 廣明

次期ホストクラブを代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。本日の開催にあたりましては実行委員長の山本様、高山中央RC会長坂之上様、それから清水ガバナー補佐、盛況のうちに会議を開催されました事、本当におめでとうございます。また高山中央RCの会員の皆様には準備や運営に関しましてご尽力されました事おたいへん高い席からではございますがお礼申し上げます。次年度のホストクラブとしまして、高山中央RC様には色々なアドバイスやご指導を賜らなければならぬ事が多いかと思いますが、よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。さて会員の皆様、天下の名泉、下呂温泉。下呂RCは会員数25名と、この2630地区の中ではたいへん会員数としては少ないクラブだと思います。ただその分だけ事業活動は中身の濃いものを吟味して色々活動している自負はしております。会員数が25名ですので年齢に関わ



らず、私のように入会后5年以内に会長が回ってくるといったたいへんなクラブです。下呂温泉は観光地でございますので、来年は是非皆様を温かくおもてなしの気持ちでお迎えしたいと思っております。準備期間中があるかと思えますけれど、一生懸命頑張っていく所存でございますのでよろしく願いをいたします。次期ホストクラブを代表いたしまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

### 所感 直前ガバナー 木村 静之

直前ガバナーの木村静之でございます。本日のIM、ロータリーとは何かという事について非常に深く考える機会となりました。ロータリーとは何か?本質論は昔から議論されていたようであります。1920年頃にロータリーの考え方が纏まってきたわけですが、そこに至るまでに社会奉仕派と職業奉仕派の非常に激しい対立があったというような事も聞いております。そういった時期を経て固まったわけでありまして、ところが最近またその辺の対立と言いますか議論が湧いてきています。何故かというR Iの考え方、戦略計画あるいは重視している事、勿論ポリオをやっています、人道奉仕もやっています。財団を非常に重視しています。増強も重視しています。そういった事について特に日本のロータリアンは職業奉仕はどうなってしまったのだろうというふうに考える人が多くて、その辺に議論が湧いているのです。今日の鈴木パストガバナーのお話を聞いて、そういった議論の中でこう考えたらいいなと非常に重要な参考になるようなお話を聞かせていただいたと思います。我々は職業奉仕というSheIdonの考え方が職業奉仕だと思っていました。そこを鈴木パストガバナーはGuy Gundakerの考え方が実は素晴らしいロータリアンを育てる言葉であると、立派なロータリアンを育てるのがロータリーの本質だとははっきり言われました。今のR Iのビジョン、戦略計画は「不易流行」の流行の部分だと、不易の部分とは別のところにあるといった事が非常にスッキリと色々な疑問点が解消された気がします。私のお話はこの程度にさせていただきます。



最後に少し鈴木パストガバナーがお話しされましたように、山形の地元では青少年の育成をはじめ、色々な活動をしておられるという事で、鈴木パストガバナーのお人柄にも触れることができました。実はこの山形という所、ロータリアンの人口比が日本の中で最も高い地域です。という事は市民の多くの人がロータリアンをよく知っているわけです。当地区よりもずっとロータリアンの人口比が多いわけです。そういった事でロータリアン、ロータリーの指導的な立場で頑張っておられるという事で、非常に我々としてもその生き方を見習いたいと思います。本日はIMを企画いただきましたガバナー補佐の清水幸平様、そしてホストを務めていただきました山本実行委員長はじめ高山中央RCの坂之上会長、メンバーの皆さんたいへんありがとうございました。以上を持ちまして私の所感とさせていただきます。ありがとうございました。

### 閉会の言葉 IM副実行委員長

#### 中田 専太郎

本日は素晴らしい講演をして下さいました、鈴木パストガバナーをはじめ辻ガバナー、それから特別出席者の皆様、またガバナー補佐それから地区



# 例会報告

委員の皆様、そしてグループを構成するメンバーの皆様、本日は本当にお忙しいところ、遠くから我々が愛する高山の地にお越しくださしまして本当にありがとうございました。我々高山中央RC一同、心より感謝申し上げます。閉会に際しまして一言ご挨拶を申し上げる予定でしたが、時間が押しておりますので、少し割愛させていただきます。今色々ロータリークラブにも課題があるかと思っております。しかしながらもこういった言葉もございませう。「困難はそれを乗り越える者にしか訪れない」輝かしいロータリークラブの今後を信じながら閉会の言葉とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

## < 第2部 >

